

会報

むすび



第38号

平成26年3月吉日

発行所

栃木県青年神職むすび会
広報委員会

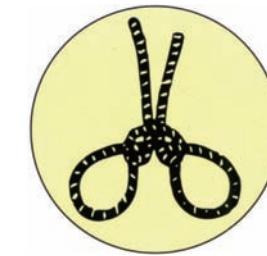
発行人

滝口貴史

印刷所

株式会社 益子印刷

写真提供：神宮司庁



栃木県青年神職むすび会 頒布品



着帯のお祝い(安産祈願)

腹 帯

〈岩田帯〉

頒布価格(1箱) **¥1,000** (送料別)

くじら尺を用いて、縁起の良い7尺5寸3分(約3m)に裁断し、高級感ある桐箱に納めました。

中の帯は、縦に二つ折にし、巻き納めています。(解説書在中)

タビックスも好評取り扱い中。12ページをご覧下さい。

ご注文
問い合わせ

〒322-0307 栃木県鹿沼市入栗野709-3 賀蘇山神社内

栃木県青年神職むすび会 事業委員会
委員長 横瀬 勝宣宛 ※ご注文はFAXにて受付致します。
FAX／0289-86-7717 TEL/0289-86-7717



皇大神宮遙拝式

会長挨拶	2
第十九回神青協一都七県協議会総会	3
東日本大震災復興支援活動	4
東日本大震災復興祈願祭／フィリピン台風被害支援 感謝状	5
祝・御遷宮	6
お白石持行事	7
遙拝式	8
遷御の儀に御奉仕して	9
御田植祭・拔穂祭	10
一都七県フットサル大会・野球大会	11
平成二十五年度むすび会事業報告	12
平成二十五年度むすび会役員一覧	13
新入会員紹介	14
祝・御結婚、祝・第一子御誕生	15
協賛社広告	16
編集後記・広報委員会名簿	17
むすび会事業委員会からのお知らせ	18



◆◆会長挨拶◆◆

**栃木県青年神職むすび会
第二十一代会長 滝口 貴史**

先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を御慶び申し上げますとともに、諸祭恙なく齋行されておりのこと、慶賀に存じ上げます。昨年は神宮の遷御の儀、出雲大社の平成の大遷宮、熱田神宮の創祀千九百年大祭等、悠久の歴史を誇る神話が蘇った年でありました。このような素晴らしい節目に歴史と伝統がある青年神職むすび会会长に就任し早くも一年が経過いたしました。日頃より諸先輩方には、栃木県青年神職むすび会の諸活動に対し、格別の御協力を賜つておりますこと、厚く御礼申し上げます。また、東日本大震災に被災され未だ避難を余儀なくされている皆様には、衷心より御見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心より御祈念申し上げます。

本期のむすび会は「第六十二回神宮式年遷宮」「東日本大震災の復興支援」「五十一年目のReスタート」の三つを大きな柱として、活動をして参りました。

「第六十二回神宮式年遷宮」では、皆様方もご存知の通り昨年の十月二日皇大神宮、五日は豊受大神宮にて「遷御の儀」が齋行されました。当会の会員数名もこの遷御の臨時出仕や衣紋者として、御奉仕したことも喜びに耐えません。またお白石持ち行事川曳にも参加し、新宮の元に心を込めて白石を納めて参りました。むすび会と致しましても、遷宮奉祝の気運を高め国民揚げての参宮促進を図つて参りたいと考えております。

「東日本大震災の復興支援」では、福島県南相馬市に赴き神社の復旧活動を行なつて参りました。福島県神道青年会、又関東地区の同志とともに福島第一原子力発電所より十数キロのお社の復旧作業を行い、また、特別に警戒区域の中に入させていただき、現状がどのようなものか視察を行ないました。震災より三年が経過し「支援活動」の文字は新聞をはじめ

報道各社から見聞することがなくなり、復興の機会も与えてもらえない地域があり、そこには、未だ震災後の状況を把握することが出来ない数多くのお社がある現状でした。「復興支援」、取り分け隣県である福島県神道青年会と協力し、微力ですが活動していく所存であります。

「五十一年目のReスタート」では、一昨年創立五十周年を迎えたむすび会が歴史と伝統を鑑み、諸先輩が培つてきたものを大切にし、会則の変更、災害対策委員会の常時設置等々を行なつて参りました。特に災害対策委員会の常時設置は東日本大震災後課題でありましたが、昨年十月十五日からの台風二十六号の甚大な被害を受けてのものでした。数年前より話は出ていましたが今期に常設化し、備蓄等々も考えております。

神道青年全国協議会も今年度六十五周年の佳節を迎え、むすび会としても様々な事業に参加しております。その事業の一環として領土問題を取り上げ、昨年度は沖縄波照間島の聖寿奉祝の碑の顕彰祭典が行なわれました。

今年は北方領土、竹島の祭典も予定されています。また、一都七県協議会においても、他県と連携して様々な事業展開しております。先にも述べましたが、復興支援はもちろんのこと、昨年は群馬県神道青年会主催で昭和六十二年に起こつた日航機墜落事故の慰靈祭、慰靈登山にも参加して参りました。神青協、一都七県協議会の様々な事業には積極的に参加し研鑽したいと考えております。

青年神職という若さを武器に、将来を見据えた対応、確かな判断力が問われるこの頃、先輩方の軌跡に恥じることの無いよう、地域社会、斯界の為、そして国のために頑張つていく覚悟であります。残り一年の任期を無事完遂し、次期役員に繋げてゆく所存であります。

今後とも、青年神職むすび会に対しまして、御指導御鞭撻宜しく御願い申し上げ、就任一年目の報告、御挨拶と致します。



実行委員長挨拶

今宮神社 福田 財大

栃木県が当番県として、平成二十五年六月五日～六日の二日間に亘り、ホテルエピナール那須において開催致しました第十九回神青協一都七県協議会総会は、栃木県神社庁の役員の皆様を始め、県内神社関係者、神青協一都七県協議会顧問の諸先輩方、さらに一都七県の各単位会の会員約二六〇名の出席を戴きまして、盛会裏の内に終了することができました。

これも偏に県内外の斬界の諸先輩方を始め、皆様の格別なるご理解とご協力の賜物と、衷心より厚く御礼を申し上げます。

今総会の開催にあたり、前年度より神青協一都七県協議会各単位会の代表と、数回にわたる会議を重ね、総会内容や決定事項を審議し、当会で開催に向けての準備を進めて参りました。

総会の決議として「我ら神青協一都七県協議会は、本年いよいよ遷御を迎える第六十二回神宮式年遷宮への奉祝の機運を更に興起するとともに、我が国の美わしい国風を守り伝え、民族精神の発揚に資するべく、皇室の尊厳護持を始めとする諸活動を積極的に展開せんことを期する。」と決議され、基本活動方針は「一、我が国を取り巻く憂慮すべき諸問題に対する意識を高め、効果的な対応に務める。二、各単位会の連携をより密にし、情報の共有を図る。三、神青協創立六十五周年記念事業、及び通常事業への参加・協力を推進する。」以上が採択されました。記念講演は、講師として現職の海上幕僚監部指揮通信情報部長の大塚海夫先生をお招きし、「中国の海洋進出と周辺情勢」と題し、大変貴重なご講演をいただきました。

今総会を滞りなく終了できましたのは、むすび会々員が一丸となつた結束力の強さと、会員各位の実行力の高さであると、改めて感じることが出来ました。これから先も斬界の興隆、自己研鑽、神道教化、そして直面する時局問題解決の為に、会員一同一致団結し、邁進して参りたいと存じます。



第十九回神青協一都七県協議会総会



第十九回神青協一都七県協議会総会 次第

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 一、開会の辞 | むすび会副会長 福田 財大 |
| 一、神宮遙拝 | 神青協一都七県協議会会长 佐野 嶽様 |
| 一、国歌斉唱 | |
| 一、敬神生活の綱領 | むすび会監事 稲葉 成孝 |
| 一、会長挨拶 | 神青協一都七県協議会会长 佐野 嶽様 |
| 一、主管県挨拶 | |
| 一、退任顧問紹介 | むすび会会長 滝口 貴史 |
| 一、来賓紹介 | |
| 一、来賓祝辞 | |
| 一、祝電披露 | |
| 一、来賓退場 | |
| 一、議事 | むすび会議長 金子 宗人 |
| 一、次年度主管県挨拶 | 埼玉県神道青年会会长 嶋田久仁彦様 |
| 一、神道青年の歌・美はしき山河 | |
| 一、聖寿万歳 | 栃木県神社庁教化委員長 小林 靖様 |
| 一、閉会の辞 | むすび会副会長 柳田 耕史 |



東日本大震災復興支援活動

①平成二十五年九月四日 福島県浪江町



②平成二十五年九月二十七日 福島県南相馬市

あの大地震より一年半以上の時が流れ、溢れんばかりに流されていた被災地や被災された方々についての報道は著しく少くなり、今や汚染水問題についての報道に終始している感が致します。恥ずかしながら、情報を得る側の私も意識が低くなっていることも事実です。被災地の「今」は、どこにあるのだろうか。その様に考えている折に、この機会を耳にし、参加致しました。

彼の地は、帰還困難地域に指定されており、この春やつと住民の一時立ち入りが許可されたとのことでした。道すがら目に映る田畑は、伸びた草で震災瓦礫が覆われ、家屋の前にも雑草が伸び、何より人の気配を感じることが無く、あの日起こった事の恐ろしさを再び知ることとなりました。住み慣れた街を、家を出ることを余儀なくされた憤りや悲しみは、残念ながら私などでは推し量ることなど出来ません。添える力も微々たるものでしょう。しかしながら、多くの人々が被災地に、被災された方々に思いを寄せ、横たわる問題を共有し、それを解決すべく共に歩み続けることで、困難を打開する光が見えてくるものと思います。

被災者であり、被災地でお宮に住える同世代の神主の生の声を、厳しい現状を伺い、胸が熱くなりました。しかし、同時に厳しい現状を乗り越えようとする強い意志も感じられました。同じ時代に生きるものとして、力を添え続けることが必要であると再認識致しました。

また、震災からの復興とは何かということを、改めて深く考へる機会となりました。

(大前神社 柳田晋作)



東日本大震災復興祈願祭

平成26年3月吉日

(5)

会報むすび

斎主	副会長	柳田耕史
副斎主	大柿文彦	
祭員	小林迪寛	
典儀	寺内誉迪	
式次第	参進	
	先ず、修祓	
	次に、斎主一拝	
	次に、祝詞奏上	
	次に、献饌	
	次に、玉串拝礼	
	斎主以下、祭員	
参与	阿久津喜大 様	
栃木県神社庁 庁長 石原敬士 様		
栃木県青年神職むすび会 会長 滝口貴史		
次に、斎主一拝		
次に、撤饌		



平成二十五年十一月八日にフィリピンを直撃した大型台風三十号（ハイエン）は、六千人を超える犠牲者を出し、行方不明者は約千八百人。負傷者は二万七千人以上、避難した被災者は約三百九十万人に上ると発表されました。

特に被害が甚大だったレイテ島（州）のタクロバン市では、四つの地区で四十六%以上の医療施設が被害により封鎖されており、六百二十八もの学校が被害を受けていることが確認されています。

東日本大震災の折、各国より迅速な救援活動を受けたことから、当会は、フィリピンへ救援金を送ることを決定し、全会員から義捐金を募り、日本赤十字社を通して寄付を行いました。

尚、現在も支援活動、救援活動は継続されており、赤十字を通じて各国より集まつた救援金や支援物資は、医療、保健衛生、給水、食糧配布、仮設住宅支援などのために使用されております。

受領証

¥200,000-

但、海外救援金(2013年フィリピン台風救援金)として

この額記載の全額は、個人については所得税法第78条第2項第3号、法人については法人税法第37条第4項の規定に基づく寄附金に該当します。

上記のとおり受領致しました

平成25年12月6日

日本赤十字社
社長 近衛忠雄
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-1
TEL. 03-3438-1311

フィリピン台風被害 赤十字より感謝状

祝・御遷宮

お白石持行事

本年十月に斎行されます遷宮にそなえ、会長以下三名でお白石持行事に参加してまいりました。七月二十六日に行われた本行事は、神青協一都七県協議会の方々と共に、神宮のお膝元である二見ヶ浦の特別神領民として御奉仕させていただきました。

前日夕刻より伊勢へ入り、当日朝日に輝く夫婦岩を拝しつつ、二見興玉神社において奉曳の安全と成功を祈願する浜参宮を致しました。その後、五十鈴川を一キロほど下流へ下り、真っ白なお白石を山積みにした櫛の前に集合しました。櫛を静かに川の中へ降ろした後は、「エンヤつ、エンヤつ」の勇ましい掛け声を響かせ、内宮へ向かいました。途中、木遣歌という獨特の節回しに合わせて、練りと呼ばれる二本の綱を曳く者同士が互いにぶつかり合う所作を繰り返しました。その所作は、厳かな奉曳の中にも、遷宮に関する諸行事に御奉仕できる神領民としての誇りと、日本国民としての心意気が感じられ、内宮が近づくにつれ、自身も気持ちが徐々に高揚していく事を感じました。

正午を少し過ぎた頃、我々が奉曳しました櫛は無事

内宮に到着し、宇治橋の袂より引き上げられ、神領民一同は新しい御敷地へと進みました。

向かう途中、各自お白石を受け取り、その石のようになまつ白な心で、これから大神様がお鎮まりになられる新宮の前まで進み、奉納させていただきました。

本行事に参加し、二十年に一度の御遷宮に向けて、方々の心に触れて、改めて神宮の尊さとその御神徳の高さを実感致しました。その一環に僅かですが携わった事に、心より感謝申し上げます。

(古峯神社 池口 敦)



式次第	典儀	斎主	会長
参進	怜人	滝口貴史	澁口貴史
次に、先ず、修祓	田邊雅祥	寺内 誉迪	根本直樹
次に、斎主一拜	葭田真彦 (龍笛)	上野敬則	寺内 誉迪
次に、祝詞奏上	黒本裕子 (鳳笙)	多田隆一	櫻木琢也
次に、遥拝詞奏上	池口 敦 (筆篥)	下妻大介	大柿文彦
次に、玉串拝礼	黒川寧子	板垣喜充	毛利晴喜
斎主以下、祭員	小野彰	高橋林之介	高橋林之介
次に、撤饌	山本明翔	大塚聰	大塚聰
次に、斎主一拜	和田晋典	和田晋典	和田晋典
	篠田薰	小野彰	小野彰
	簞	山本明翔	山本明翔



日時 平成二十五年十月二日 午後八時斎行
場所 栃木県神社庁神殿

皇大神宮遷御 邑拝式

遷御の儀に御奉仕して

第六十二回神宮式年遷宮が皇大神宮、豊受大神宮共に盛大かつ厳肅に御斎行されましたことは慶賀の極みにて心より奉祝申し上げます。

この度は栃木県神社庁より御推挙頂き、神宮臨時出仕として式年遷宮の関係各位に深く感謝申し上げます。神宮御当局よりは豊受大神宮における遷御の儀の奉仕員としての命を賜り、川原大祓への参列及び辛櫛奉昇、遷御の儀の庭燎所役を務めさせていただきました。

遷御前日の川原大祓では平礼烏帽子、白雜色、赤单、白括り袴という臨時出仕の奉仕服を著装し、三ツ石のある中御池のほとりに整列し、仮御樋代・仮御船代、奉遷御料、御装束神宝及び御奉仕する御祭主以下の全ての神職が順次御祓いをうけました。その後、辛櫛の一合を昇いで御正宮まで奉昇いたしました。今次 約八十年ぶりに古儀に復した漆塗りの辛櫛はまばゆいばかりに輝いており、その貴さに身も心も震える思いが致しました。

遷御の儀当日は、新宮中重の東庭燎所役を仰せ付かりました。この役は御垣内に設けられた内院東・西、中重東・西・西南の庭燎五か所の内一つになります。夕刻六時前より森厳な中に新宮の中重に侍し、土壇に松薪をくべ忌火を見守りながら静けさの中に御正宮より響く玉砂利を踏む音を遠くに聞いておりますと、暫くの後鶏鳴三声が朗々と響き渡り、さらに畏れ多くも勅使の「出御」という厳かな声が微かに聞こえて参りました。幾許も無く道楽が近づき来たり、庭燎の火も消された淨闇の中御列が参進され、行障・絹垣に秘められた神儀の御影を間近に拝しました。その様子は神秘的という程相応しく、有難さに感極まりました。仰ぎ見れば大御神様をお迎えした新しい御正宮は、清けき檜と御白石に反射する篝火の光を受けて一層神々しく感じられました。

親から子へと受け継がれていく命のように、式年遷宮を通じて全てが瑞々しく受け継がれていく、そんな「常若」の精神を肌身で感じ、厳肅極まりない思いに包まれました。古から今へ、現在から未来へと永々と続く悠久の流れの中で自分がその一筋の命脈の一員となれましたことを誇りに思うと共に、その巡り合わせに感謝しております。今回の経験は一生涯忘れ得ぬ貴重な宝であり、これからも神職として神宮の尊さ、遷宮の大切さを守り伝えていく責務を果たして参りたいと存じます。

(賀蘇山神社 橫瀬 勝宣)

遷御の儀

(写真提供) 神社新報社



神宮式年遷宮の衣紋奉仕を終えて

第六十二回式年遷宮が無事盛大裡に斎行されたことは、一国民として大変喜ばしい限りであります。有難いことに私は、今回の式年に霞会館衣紋道研究会の一員として、内宮・外宮の川原大祓、遷御、奉幣の儀の衣紋奉仕をさせていただきました。それらの神事では、大宮司・少宮司・禰宜は束帶に明衣、権禰宜以下は衣冠に巾明衣を着けます。

束帶とは、大口、單衣、表袴、下襲、裾、袍、石帶から成り、これに明衣（袍の襷付と格袋をなくした形状で両脇を縫いとめていない生絹のもの）を重ねて着けます。因みに、束帶を簡略化したものが衣冠です。

我々衣紋道研究会は、大宮司・少宮司・禰宜の着装を担当しました。

衣紋道には、高倉流と山科流の二流があり、今回、内宮の神事では大宮司が高倉流、少宮司が山科流で、外宮はその逆で着装いたしました。両流の違いは多々ありますが、分かり易い所では袖わな（輪）の形と、格袋の仕上がりです。

着装は御方一人に対し、前後二人の衣紋者でいたしますが、それでも三十分ほどを要します。私は連日お二方の禰宜の着装を奉仕させていただきましたが、着装後も祭典が終るまでは、帯が緩んだりしないか、込みが抜けたりしないかなど心配しましたが、幸い着装の乱れもなく、無事に全日程を終えることができました。テレビや新聞などで参進のお姿を拝見し、とても心地よい充実感を味わうことができました。

遷御に際しては、着装奉仕後に奉拝に着かせていただきましたが、渡御御列が進んで絹垣がお通りになつた時は、大御神様を全身で感じ、言葉に表せないほど感動的でした。

今回、衣紋者として式年遷宮に奉仕させていただきましたことは、本当に貴重な経験でした。この感動を胸に、今後の神明奉仕と衣紋道の研鑽に努めて参りたいと思います。

（須賀神社 沼部 泰幸）



（八坂神社 萩田 真彦）

豊受大神宮に於いて臨時出仕として、十月四日川原大祓、十月五日遷御に奉仕させて頂きました。私は神宮研修所出身ですが、入所したのが平成六年四月であり、前回の遷宮では、別宮の遷御はご奉仕いたしましたが、「正宮御鑰辛櫛所役」を申し付かり、多くの臨時出仕と共に、平礼烏帽子・白雜色・赤單・白括り袴の装束を身につけ、御奉仕致しました。三千人以上参列者が板垣南御門前に参列しているのが嘘のような静けさの中、祭主以下祭員の参進に先立ち瑞垣と内玉垣の間に辛櫛を担ぎ入れ、遷御の時を待ちました。松明と庭燎のほのかな明かりの元、「カケロー」「カケロー」「カケロー」と鶏鳴所役が三声、続いて勅使が「出御」「出御」「出御」と三回唱え出御となりました。絹垣に包まれ進み行く渡御御列の厳かな空気を感じることができました。翌日、奉仕を終え改めて両宮へ参拝いたしましたが、前夜の静けさとはうつて変り、すでに多くの方々が訪れていました。

絶え間なく続く参拝の列を見ると、伊勢の神宮は神職に限らず日本国民にとって、敬わらずには居られない重要な存在であると、再認識させられました。

第六十二回神宮式年遷宮

御田植祭

当会の恒例行事でございます、御田植祭が五月十五日、会長宅にて管理されている伊勢神宮献穀米神田において斎行されました。本年で十二回目を迎える本行事は、伊勢より拝戴した苗「イセヒカリ」を大切に育て上げ、毎年献穀米として神宮へ奉納しております。

御田植祭は、日本古来より伝えられる伝統行事、また次世代へ継承して行く為の教化活動の一環を担う行事ということから、本年より栃木県神社庁教化委員会の皆様と合同で行うこととなりました。

まず始めに、神田前にて神事を斎行致しました。稻の健やかな成長と雨風の被害が最小限で済むよう祈願した後、斎主により、苗を田に植える「御田植の儀」が行われました。その後、参列者全員が神田に入り、一列に並び田植えを行いました。

神職として、米作りは最も大切な行事であると考えておりますが、今回のように自らの手で苗を植えるという作業は、実際にはなかなか携われないことです。大変貴重な体験をさせていただき、心より感謝致します。

お米は、神饌の中でも最も大切な穀物であり、自ら育て、御神前にお供えし、その後恩頼として頂戴することは、豊かな自然への感謝、大神様への感謝、そして祈りだと思います。

私は神職として、一般の方々、特に若い世代の皆様に、神社の在り方、神様の存在、自然への感謝等の意味をよりわかりやすくにお伝えしていくためには、自分自身が、古来より伝わる多くの伝統行事を体験又は経験していくことには、継承していくことは難しいのではないかと、改めて感じました。毎年行う御田植祭をはじめ、今後様々な行事や、沢山の御奉仕を通じて、より良い教化活動ができるよう努めていきたいと思います。

(賀茂別雷神社 毛利 晴喜)



拔穂祭

本年五月に斎行されました御田植祭時に植えた苗は、順調に生育し、九月三十日無事に刈入れを迎えることができました。

本年拔穂祭は、御田植祭同様栃木県神社庁教化委員会の皆様と合同で行い、また今回初めて地元那須烏山市つくし幼稚園の園児と先生方も参加していただきました。

刈入れ前の神事では、教化委員長様、部門長様、神田管理者様の御参列を戴き、斎主が初穂を神前にお供えした後、各々玉串を捧げて拝礼戴きました。

神事後、神田に到着した園児達は、当会会長と教化委員長より、お米の大切さや伊勢の神様のお話を受けた後、元気いっぱいに、会員と共に稻刈りを行いました。小さな手に鎌を持ち、少し危なつかしい手つきで稻刈りを行う園児達を、優しい眼差しで見つめながら、後ろからそっと手を添える先輩神職の方々の姿を見て、心が温かくなりました。また、幼い手で感じた黄金色の稲穂の重み、自然の大切さ、稻作という日本古来の文化を、年齢を重ねることに少しずつ興味をもつてもらえたたらと、思いました。

今後は、子供達のみならず、その親御さんや若い世代の方々にも、このような行事に大勢参加していただき、神道と稻作の関り、神道の祭礼は、五穀豊穣を大神様に祈る事、その年に収穫した新穀を大神様に一番に奉納する事、感謝と國家国民の安寧を祈念する事、そのような神事が古来より連続と継承されていること等を、自分の言葉でわかりやすく伝えて行ける様、日々勉強を重ねていきたいと思います。

(宇都宮二荒山神社 小林 迪寛)



フットサル大会

五月三十一日、爽やかな五月晴れの空の下、第四回神青協一都七県協議会主催の親睦フットサル大会が、国立代々木競技場フットサルコートに於いて開催されました。

当会チームは、第一回・第二回優勝という輝かしい成績を残しておりますが、昨年は会の都合上不参加であつた為、本年は二大会ぶりの出場となりました。

今大会は滝口会長をはじめ、会員九名が参加し、二年ぶりの芝の感触を確かめつつ、再び優勝を狙おうと、皆心の中で密かな闘志を燃やしておりました。参加する各都県チームは皆年々力を付けており、また参加チーム数も、今大会は過去最大の八チームと成り、コート毎に熱戦ならぬ激戦が繰り広げられました。

当会チームは、各対戦とも接戦ながら順調に勝ち星を重ねていきました。全試合が終了し得点王に絡む選手はいなかつたものの、各々が持ち得る最大限の力を發揮し、得点を重ね、鉄壁の守りとチームワークで、最高の結果を得ることができました。

(瀧尾神社 和田 晋典)



九月六日、神宮外苑球場にて、一都七県神職野球大会が行われました。当大会は本県が当番県ということもあり、会長をはじめ実行委員の方々を中心で準備を進めてきました。

当日は天候にも恵まれ、本県は一回戦は千葉県チームと当たり、選手一同の全力プレーが実り見事勝利を收め、次に勝てば決勝進出という事で皆一丸となり戦いました。しかし、毎年優勝候補とされる神奈川県チームの壁は厚く、準決勝敗退。その後の三位決定戦も残念ながら負けてしまい、全体四位という結果となりました。

今回の大会参加に於いて、結果は前回大会を上回る事ができましたが、上位チームとの差は大きく、まだまだ精進を重ねなければ感じました。しかしながら、野球というスポーツを通じて普段の活動とはまた違うむすび会員同士の交流、各県の方々と親睦を深める事ができたことはとても素晴らしい経験となりました。最後に、大会前から準備を重ねてくれた実行委員の皆様、本当に疲れさまでした。

(太平山神社 坂本 龍彦)

野球大会

平成二十五年度 むすび会事業報告

平成26年3月吉日

(平成二十五年)

四月 五月	並びに第一回役員幹事正副委員長会議	栃木県神社庁
四月 十九日	第一回一都七県協議会定例会議	東京都神社庁
四月二十三日	第六十五回神青協定例総会	神社本庁
四月二十八日	県内神社例祭会員奉仕	神社本庁
五月 十五日	第二回役員幹事正副委員長会議	栃木県護国神社
五月 同 日	むすび会御田植祭	那須烏山市
五月 三十日	第三回役員幹事正副委員長会議	コンセーレ
五月 二十三日	平成二十五年度むすび会定例総会	那須烏山市
五月 三十一日	親睦フットサル交流会	栃木県神社庁
六月 五日	第十九回神青協一都七県協議会総会	宇都宮二荒山会館
六月 六日	懇親芝球会	宇都宮二荒山会館
六月 二十五日	氏青むすび会合同芝球コンペ	国立代々木競技場
六月 二十八日	那須御用邸勤労清掃奉仕	ホテルエピナール那須
七月 三日	復興支援活動	那須国際CC
七月 二十二日	第四回役員幹事正副委員長会議	二ユーズントラルCC
七月 二十九日	祭式研修会	那須町
八月 二十二日	第二回一都七県協議会定例会議	宮城県金華山
八月 二十七日	神青協夏期セミナー	宇都宮二荒山会館
八月 二十八日	靖国神社正式参拝	栃木県神社本庁
九月 四日	並びに埼玉県神道青年会交流会	神社本庁
九月 三十日	神青協東日本大震災復興支援活動	福島県

(平成二十六年)

九月 六日	第十七回一都七県協議会神職野球大会	明治神宮外苑
九月 二十七日	東日本大震災復興支援活動	福島県
十月 二日	むすび会拔穂祭	那須烏山市
十月 十日	聖寿奉祝の碑奉告祭(神青協全国協議会)	沖縄県
十月 十五日	第六回役員幹事正副委員長会議	宇都宮二荒山会館
十月 十八日	第三回一都七県協議会定例会議	宇都宮二荒山会館
十一月 三日	第七回役員幹事正副委員長会議 並びに忘年会	ホテル鬼怒川御苑
十一月 十三日	第四回一都七県協議会定例会議	靖国神社
二月 二十四日	第八回役員幹事正副委員長会議 並びに新年会	栃木県神社庁
二月 二十一日	建国記念の日記念式典	宇都宮二荒山会館
三月 七日	第五回一都七県協議会定例会議 並びに顧問会・新年会	神社本庁
三月 十一日	東日本大震災復興祈願祭	北海道
三月 (十三日) (十四日)	一都七県研修旅行会	茨城县

※その他

執行部会、役員会、役員・幹事・正副委員長会を
必要に応じて開催

執
行
部
会

、

役
員
会

、

役
員
・
幹
事

・

正
副
委
員
長
会

を

必
要
に
応
じ
て
開
催

【広報委員会】		【研修委員会・事業委員会】	
委員長	副委員長	委員長	副委員長
津大下	板秋横	寺根岩	
田柿妻	垣元瀬	内本松	
文大會	喜亮勝	誉直史	
宏彦介	充平宣	迪樹恵	
乃木神社	賀蘇山神社	津島神社	
日吉神社	乃木神社	大前神社	
今宮神社	春日神社	村檜神社	
乃木神社	權禰宜	宮司	權禰宜
日吉神社	權禰宜	權禰宜	宮司
今宮神社	權禰宜	宮司	權禰宜
乃木神社	權禰宜	宮司	權禰宜
春日神社	權禰宜	宮司	權禰宜

◆各種委員会氏名◆

役員会長
副会長
事務局長
監事長
監事長
監事長
監事長
監事長
監事長
監事長
監事長
監事長
監事長

櫻金葭稻上田福柳福瀧
阿木子田久葉野邊田田口
琢宗真岩成敬雅有耕財貴
也人彦貴孝則祥宏史大史

八坂神社
今宮神社
大前神社
日光二荒山神社
岩崎神社
白鷺神社
日光二荒山神社
春日神社
八坂神社
宇都宮二荒山神社
諏訪神社

權禰宜
權禰宜
權禰宜
權禰宜
權禰宜
權禰宜
權禰宜
宮司
宮司
宮司
宮司
宮司

◆平成二十五年度 役員幹事氏名◆

【地区代表幹事】

中央地区代表（宇河支部・宇都宮・荒山神社）

大塚聰（白鷺神社）

北東部地区代表（芳賀支部・塩谷支部・南北那須支部）

高橋林之介（今宮神社）

西部地区代表（上都賀支部・日光二荒山神社）

多田隆一（日光二荒山神社）

古峯神社代表（古峯神社）

黒本裕子（古峯神社）

南部地区代表（下都賀支部・安佐・足利支部）

沼部泰幸（須賀神社）

權禰宜

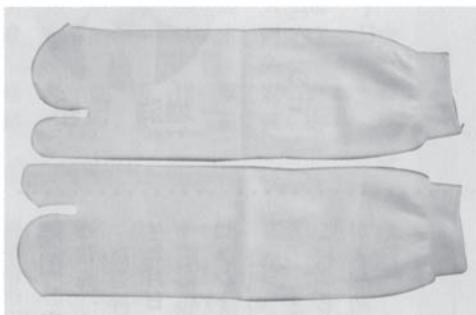
權禰宜

權禰宜

權禰宜

權禰宜

足袋の中にはく靴下



タビックス

5足組

¥500 (送料別)

12足組

¥1,000 (送料別)

新入会員紹介



もうり 毛利
はるよし 晴喜



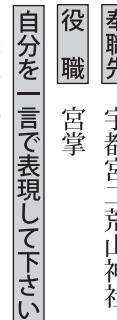
こばやし 小林
みちひろ 寛迪



あらい 荒井
きよたか 清孝



奉職先 賀茂別雷神社
役職 祜爾宜



奉職先 宇都宮二荒山神社
役職 富掌



にしかつ 西勝
てるゆき 幸輝

奉職先 薬師寺八幡宮
役職 権爾宜



あらい 荒井
きよのり 清律

奉職先 安住神社
役職 祜爾宜



さとう 佐藤
ひろなお 大直

奉職先 日光二荒山神社
役職 出仕

自分を一言で表現して下さい

楽しいこと好きな、町の兄ちゃん。

これから抱負

たくさんの有意義な経験を共にできたらと思います。

切磋琢磨

これから抱負

自分を一言で表現して下さい

マイペース

これから抱負

温厚

いち早く社務に慣れ、神社に貢献していきたいです。

自分を一言で表現して下さい
社交的
これから抱負
残り一年のみの在籍となります
多くの皆様と知り合いしたいと思
宜しくお願い致します。

自分を一言で表現して下さい
優柔不断
これから抱負
先輩たちが築いてこられた歴史と伝
統を大切にし、努力して参りたいと思
います。

自分を一言で表現して下さい
これから抱負
(表現ができる人間になりたい)
如何に神社を理解してもらうか

自分を一言で表現して下さい
社交的
これから抱負
まだ表現できる人間でないので。
(表現ができる人間になりたい)

自分を一言で表現して下さい
これから抱負
如何に神社を理解してもらうか

とちぎ蔵の湯

柏倉温泉 太子館

〒328-0066 栃木県栃木市柏倉町967
TEL(0282)23-5035(代) FAX(0282)23-5082
<http://www.taishikan.jp> ☎ 0120-235035

奉職先 安住神社
役職 権禰宜
自分を一言で表現して下さい
何事にもまっすぐ
これから抱負



上野 敬則

新婦氏名 上野 玲

新郎のつぶやき 夫婦共々宜しくお願ひ致します。

第一子誕生祝・御結婚

根本 直樹

第一子氏名 根本 和樹 (かずき) (長男)

生年月日 平成二十五年 九月 二十日

お子様へ一言 興味ある世界を、広くそして深く見聞してください。

新郎のつぶやき 幸せです。

新婦氏名 山本 美里

入籍日 平成二十四年 十二月 十九日

奉務先 山本 明翔

新郎氏名 日光二荒山神社



祝・第一子誕生

祝・第一子誕生



大当たりのお手伝い

株式会社下野広告社
〒320-0051 宇都宮市本町9-17
TEL 028-666-8123 FAX 028-666-8133

営業品目
縁起物入おみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金襴綿守・各種熊手・守護矢・朱印帳

おまもりの奉製
株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡213-7
TEL (0282) 62-1010 (代表)
FAX (0282) 62-2061

全国各神社御用達

神符・守札・木札・ビニール守・錦守・集印帳
交通安全守・御守袋・守護矢・ステッカー
奉書紙・書道半紙・画仙紙・色紙・他

創業100年 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 力男

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11
TEL 055(272)0514(代)
FAX 055(272)8818

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念奉製

御一報次第カタログ御送り致します。



グリーン産商株式会社

代表取締役 柚木 忠

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL 大阪(06)6702-6009(番代)
FAX 大阪(06)6797-5896(番)

神祭具・御装束・雅楽器類
授与品・結婚式場調度

(株)高善装束店

代表取締役 桑 真一

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-2-9
TEL 03(5815)8771
FAX 03(5815)8772

県内各神社様、工事拝命先 (順不同)

日光東照宮	矢板木幡神社
日光二荒山神社	小川温泉神社
宇都宮二荒山神社	足利権崎八幡宮
真岡大前神社	佐野人丸神社
大田原那須神社	下野一社八幡宮
西那須野乃木神社	祖母井神社
氏家今宮神社	足利八雲神社
足利星宮神社	一瓶塚稻荷神社

株式会社

小西美術工藝社

〒321-1421 栃木県日光市所野2829-1
〒108-0014 東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3階
TEL 日光(0288)54-1198(代) TEL 東京(03)5765-1481(代)

足袋・和装用品専門店



株式会社 福生

〒593-8303

堺市西区上野芝向ヶ丘町4丁22-20
フリーダイヤル 0120-29-0068
FAX 0120-29-0052
ホームページ <http://www.tabiya.net>

社寺建築請負い

石川工務店

代表取締役 石川 明

〒321-1406 栃木県日光市松原町1233番地
TEL 0288-53-0408



内宮に一番近い宿・どなたでもご利用いただけます
早朝参拝のご案内をしております

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
伊勢神宮崇敬会

ご宿泊に関するお問い合わせはー^ー
〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL 0596-22-0001/FAX 0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>

第六十二回神宮式年遷宮
遷宮で結ぶ人の輪心の輪



祈りをかたちに
授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所
代表取締役 長谷川義貢
〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL 048-921-1221(代表) FAX 048-921-1515



麻・鈴緒・合織○繩(注連繩)製造
有限公司 モミヂヤ

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
フリーダイヤル 0120-22-1312
FAX 0282-22-1387
<http://www.t-cnet.or.jp/~momidiya/f-top>

御社頭授与品奉製
※御希望通りの御調製申し上げます。
御一報次第参上致します。

新日本工芸株式会社
〒311-4153
茨城県水戸市河和田町3891
電話 (029) 251-0997(代)
FAX (029) 252-8287

平成25年 祝 第62回伊勢神宮式年遷宮


伊勢名物 **岩戸餅**
お伊勢参りのお食事とお土産は

宇治橋より30秒!!
伊勢内宮前

〒516-0024
伊勢市宇治今在家町58番地
TEL (0596) 23-3188代
FAX (0596) 28-1322
<http://www.iwatoya.co.jp>
E-mail info@iwatoya.co.jp

【取扱品目】神具・祭具・御守・神櫃・調度品・記念品・雅楽器・木工品
神祭具の事なら民俗工芸にお任せください

ご注文専用フリーダイヤル
TEL: 0120-534-550
FAX: 0120-872-550



ホームページからのご注文も承っております
URL <http://www.minzoku.co.jp>

株式会社 **民俗工芸** 〒857-1162
長崎県佐世保市卸本町 18-1
土曜日も平常通り営業いたしております

高級西陣織 各種金襴錦守・木札・紙札・ステッカー
絵馬・木彫・土鈴・装束・撒餌・記念品



御社ならではの御守をオーダーメイドで奉製いたします
色・柄・形などお気軽に御相談ください

京都奉製株式会社 京都本社／東京営業所
仙台営業所／福岡営業所
TEL 0120-164124 (イロヨイニシキ) <http://www.omamori.co.jp>

ようこそお伊勢さんへ
勢乃國屋では、豊富なおみやげ品、
伊勢の郷土料理を用意して、
皆様のお越しをお待ちしております。
どうぞお気軽にお立ち寄りください。
～伊勢路の土産と御食事処～



伊勢内宮前 〒516-0024
伊勢市宇治今在家町117
TEL 0596-23-5555
FAX 0596-23-1928
URL <http://www.senokuniya.co.jp>
E-mail info@senokuniya.co.jp

授与品専門奉製所

常陸神宝(株)

商標登録 「夢みくじ」「一期一会御守」
 〒310-0902 水戸市渡里町835-1
 TEL(水戸) 029(227)0511(代)
 FAX(水戸) 029(227)0512



〈営業品目〉

- 交通安全御守護
- 開運招福鉢
- 文鎮 金盃
- 各種記念品類
- 胸像・レリーフ・鋳造類

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
 TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
 E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
<http://www.suzuki-kisho.co.jp>



株式会社 皆中 *kaichu*
 〒156-0045
 東京都世田谷区桜上水4-8-7 HALS桜上水2F
 TEL 03-3302-1899 / FAX 03-3302-1900
 E-Mail: koushin@kaichutabi.com
<http://kaichutabi.com>

各授与品、記念品奉製

金襴綿守、合成樹脂製守、紙札守
 木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
 TEL 水戸 (029)251-2051(代)
 FAX 水戸 (029)253-5844

宮内庁

神社本庁・栃木県神社庁・各県神社庁
 全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場 御用達

株式会社 大槻装束店

東京・上野駅前
 東京都台東区東上野3丁目17番9号
 電話 03(3835)3201(代)
 FAX 03(3835)0617
<http://www.ootsuki-shozokuten.com>

総合印刷

(株)井上総合印刷

代表取締役 井上光夫
 本社 宇都宮市岩曽町1355

TEL (028)661-4723
 FAX (028)662-7607

文化を表現する会社

企画デザインからカラー印刷、製本まで

株式会社 益子印刷

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子1709-6
 TEL.0285(72)3131 FAX.0285(72)6868

神祭具 授与品 記念品 奉製



株式会社 神路社

本社 三重県伊勢市岩渕2丁目5番29号(松原西第26号)
 〒516-8611 電話番号 0596-24-5858 FAX 0596-24-5110
 I.P電話 050-3536-5273
 URL <http://www.kamijisya.co.jp>
 E-mail info@kamijisya.co.jp

神苑 (東日本営業所) 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号ACTビル4階
 〒150-0013 電話番号 03-3280-6720 FAX 03-3280-6721
 I.P電話 050-3539-3432
 E-mail shinen@kamijisya.co.jp

編集後記

平成二十五年は、神宮におかれまして、第六十二回式年遷宮の儀が恙なく斎行され、両宮とも御靈が新しい社殿に遷されました。平成十七年の山口祭から始まつた全ての諸祭儀が滞りなく斎行される中、当会においても、発足五十周年記念事業と合わせた遷宮啓発活動、七月にはお白石持行事に参加し、内宮遷御の儀当日には、栃木県神社庁神殿を通して皇大神宮遙拝式を行い、二十年に一度の遷宮を奉祝し、神宮の御神威がより一層高まりますよう、会員一同御祈念申し上げました。

さて、本年もここに「会報むすび 第三十八号」が、皆様のお蔭をもちまして無事発行できましたこと、厚く御礼申し上げます。御協賛を賜りました皆様、御寄稿御協力戴きました皆様へ、この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

近年斬界を取り巻く環境は、決して安堵できるものではありませんが、我々青年神職は、自己研鑽を積み、会員相互の親睦を深め、これからも様々な事業に取り組んで参りたいと思います。今後とも、御指導御鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

私事ですが、この度、座間市の座間神社に異動となり、この編集後記をもちまして、当会を退会することとなりました。短い期間でしたが、皆様からの御指導の数々には感謝の他にはございません。

異動先でも精進致しますので、よろしくお願い致します。

小野 彰



広報委員会名簿

委員長	岩松 史恵
副委員長	根本 直樹
委 員	寺内 誉迪
副委員長	石原奈央子
毛利 晴喜	
多田 隆一	
黒川 寧子	
津田 亮	
増渕 元	
坂本 龍彦	
和氣 裕美	
山本 明翔	
小野 彰	
小林 迪寛	
佐藤 大直	